

シーン2

「ウェーイw 司令君見てるー？ w w w 司令くーん？」

「今からアナタの大切なリーダー『蒼刃』っちの、アナル調教2回目を始めちゃいまーす♡ リーダーは逃げられないように、M字開脚で椅子に拘束しちゃってるよお♪」

「手足をがっちり固定して、オチンポもアナルも丸見えッ。あ、椅子の後ろの大規模な装置とか、ホースとか、やっぱり気になります？ 気になっちゃいますよねー？」

「うふふ、こーれーは組織の頭のいい研究者さんが作ってくれた、正義の味方無力化装置だし！」

「装置についた、このホースみたいなのが搾精器で、この装置を使って、オチンポからザーメンごと正義の力の源をぎゅいぎゅいつて、ゼーんぶ吸いあげちゃうってカンジ？」

「見た目は精液をずるずる吸われてるみたいに見えちゃうけど、ザーメンと一緒に、正義の力も♡ 男らしい強靱な意識も♡」

「ゼーんぶバキュームして、リーダーには、何にも残らなくなっちゃうかも。そうして吸い取ったリーダーの力は、アタシたちの組織のために活用させてもらいまーす！」

「それじゃ、リーダーのオチンポに装置を使っちゃうね」

「えーっと、そうそう、この搾精器にリーダーのおちんぽをセットしたらいいんだよね。もう、ふにゃちんどうまく入らないー……」

「ほら、抵抗したって無駄だってば。アタシ、ふたなりチンポつけてもらってから、おちんちんの扱い、すっごく上手くなってるし」

「リーダーのオチンポだって、このところローションでしこしこして、即勃起させてあげちゃうよ♪ ローションを手にも、リーダーの股間にもたっぷりと垂らして♪」

「それじゃ、マラピーチ、いきまーす♪」

「リーダーのおちんぽを握って、しこしこ、しこしこ♡ どうか、アタシの手コキ、気持ちいいかなあ？」

「すこしずつ、しこしこしこ、速くしたり、逆にしこしこしこ、しこしこしこ、ゆっくりしたりするね。ほら、先っぽをにぎにぎして、しこしこッ♡ 指先を亀頭に絡めて、しこしこッ♡」

「うーん、オチンポ、甘立ちはするけど、なかなか、元氣にならないってカンジ？」

「それじゃ、どうしよつか？ あ、そうだ……指にたっぷりとローションをまぶして、リーダーのアナルを、ほら、指でほぐしていくね」

「入り口から優しく、ちゅくちゅくッ♡ 指先を出入りさせて、指がお尻の中を行ったり来たり、ちゅくちゅくッ♡」

「ローション塗ってるから、お尻の中、すごく滑りが良くて、奥までずぶずぶって、入っていつちやつてるね♡」

「んしょ、んしょッ……ほら、すっごいよお……このまま前立腺をこりこり刺激して♡あはっ♡ リーダーのチンポ固くなって来たあ」

「くふ、元仲間のローションお手々、気持ちいいんですかぁ？ ローションまみれのオチンポとアナルを、アタシの手でもっと激しく責めてあげま〜す」

「ほらぁ、オチンポしこしこしながら、お尻の穴もじゅぶじゅぶ、かき回してくよ。あは、カウパーもだらだら溢れてきて、匂いもすっごい」

「もう出ちやいそうだね？ リーダー、どう？ オチンポからせーし、びゅくびゅくびゅくるるるって、お漏らし射精しそうなんじゃない？」

「ほらほらぁ、って……あああんッ！ もう、ちよっと煽っただけで、出しちゃうなんリーダー、ちよっと早漏すぎー♡ ダメですよー、白いのびゅっびゅするのはこっちの搾精器のオナホ穴ですよお♡」

「あーあ、もったいないの。あちこちにザーメン飛び散っちゃって、手にもいっぱい掛かっちゃったぁ、んぢゆる、ぢゆるる。はふ……美味しい」

「でも、まだオチンポは硬いまだから……オナホ穴をリーダーの勃起にあてがって、と。えいつ、ふふふ、グチュって入っちゃった」

「これで、準備完了。覚悟してね、リーダー♡ これでリーダーのザーメンを一気にバキユームしていくね」

「くふふ、怖がらなくてもいいよお♡」

「食事に精子の生成を10倍にするお薬を混ぜたから心配しなくて大丈夫。もうリーダーの玉袋にはぷりっぷりのフレッシュなザーメンがたっくさんできてると思うよ。むしろ出したくて仕方ないんじゃない、くすすッ」

「装置のオナホを動かして、リーダーの精液と正義の力、ゼーんぶ吸引しちゃいま〜す」
「それじゃッ、スイッチオンっ。搾精開始い〜♪ あは、すっごいでしょ、電動オナホ」

「中でおまんこに似せたつぶつぶがぐりぐりって回転して、リーダーのオチンポの先から、エラ、裏筋までおかしくなるぐらい良くしてくれるよ」

「出したくなったら、我慢せずに出しちゃって。オナホの中に思い切り、射精しちゃって♡ びゅるる、びゅるるる、ほら♡ 気持ち良く、お射精してッ♡」

「あは、出てる出てる♡」

「オチンポから、いやらしいお汁、どびゅどびゅお漏らしして♡ リーダー、顔が緩みきって、気持ち良さそう」

「ほら、みんな見てるのに、そんな顔しちゃっていいんですかぁ？」

「ふふ、でも気持ちいいんだから、仕方ないよね」

「もつと腰振って、ほらほらほらあ、たくさんせーし出して♡ 電動オナホで良くなっちゃってくださいーい♡」

「でも、リーダーの搾精されるとこ、本当にエロくって あんッ……ダメえ♡ アタシも興奮して、我慢できなくなってきた……オチンポもガチガチにそり返っちゃって、先走り液も止まらないし♡」

「くふ、んふ。司令君の前だけど別にいいや、アタシはふたなり怪人マラピーチだもん」
「チンポをシコシコしてオナるぐらい、普通のことだもんね♡」

「リーダーの搾精姿見ながら、ふたなりチンポをシコシコしちゃうね。あ、ああ♡ 手でチンポ扱きながら、リーダーの搾られてるところ見るの、最高♪」

「あ、んあ♡!!……フウ、フッ……ん♡ んん♡ ふあっ♡!!……ハアッ、ハアッ♡!!
ふあッ♡♡!!……ん！ ふう♡!」

「んふ、リーダーも装置にザーメン吸われて、気持ちいいんだね。溢れた精液がタンクにいっぱい貯まって、すっごい♡ これ、何リットルもあるよお。んふ♡」

「チンポ、いい、いいの、気持ち良すぎなの♡ リーダーは正義の力をたくさん吸われて最後はただのメス穴人間になっちゃうんだよ♡」

「あんなに立派だったリーダーがただのメスオナホになっちゃうかと思うと」

「ああ、興奮する♡ アタシ、もう我慢できない。したい、射精したい♡ あひ、あひい♡ でも、このまま出すのは、なんかもったいないし♡ 出すなら、やっぱりリーダーの中、だよね♪」

「さ、お口をこっちへ向けて、んしよっと」

「リーダーの顔の前に、はい、勃起チンポだよ。くすす♪ 搾精されながらも、すんすん、匂い嗅いじちゃうんだ？」

「このままリーダーの唇にチンポ、コスコスしちゃうよ。ん、ん♡ あふ、チンポ先に唇が絡んで、たままないし♡」

「どーするか、わかるよね？」

「そう、んんんッ、リーダーのお口にふたなりチンポ突っこんじやいます、んんんッ！んふ、お口の中、気持ちいい……このまま、出しちゃいそうだけどお♡」

「リーダーのお口の感触、もう少し楽しみたいから、我慢、我慢っ♡ あはあ、お口の中にチンポ突っ込んだだけで射精量アップしてる、くふふ、すっごいよお、リーダー」

「このまま腰を、んん、んん、動かしてイラマチオしたら、どうなっちゃうのかな？」

「はふ、ん♡……ツうあ！……ハア、ハア♡ ハアッ♡!!……ん♡ んふう♡!!……ふあっ♡!!……んっ、んあっ、はう……んんっ♡ ん”ん”っ♡♡!!!」

「オチンポの先、喉奥にずんずん当たって気持ちいい。リーダーの口まんこ、最高すぎ♡ アタシ、も、もう、ダメええ、で、出る、出る♡」

「ふたなりチンポ汁、びゅぐびゅぐって、出しちゃいそう……でも、リーダーも沢山射精してザーメンタンクにもたっぷり溜まってきてるから出した分は、ちゃんんと補給しないとね♡」

「あふ、出すよお、リーダーの喉奥に、んお、んおおッ♡ イラマチオで、口内射精ッ、するうーッ♡♡ おふうーッ♡」

「はあ、はあ……いっぱい出たあ……あ、ほら、飲んでよお♡」

「そうしないとザーメン給油にならないし♡」

「お口から零しちや、だーめ。全部、ごくごく飲んじゃって♡ んふ、できたきた、さっすがみんなのリーダー、えらい♡」

「ほら、司令君も、みんなも、ザーメン飲み干せたリーダーを褒めてあげて♡」

「うーん、でもまだ、リーダーの射精は想定より少ないかなあ？ やっぱりアナルも責めまくって、搾精しちゃうのいいかな」

「んじや、椅子をぐるっと回転させてリーダーは動かなくても、アタシの前にはい、アナルが到着♡ それじや、お尻にアタシのデカマラをあてがってえ、んんんッ♡」

「お尻の穴、すっごく簡単に開いて、アタシのチンポ、呑みこんじやった♡ リーダーのアナル、エロすぎ♡ 身体だけなら、もうメスなんですけど♡」

「はひ、はひい、このままお尻の中をぐちゅ混ぜしちゃうね。ん♡ んん♡」

「あふ、リーダーすごい、お尻の中、少し混ぜませしてるだけなのに射精の量が二倍になっちゃってる」

「腰をビクビク震わせて、せーしの打ち出し止まらないんだ♡ リーダーの射精してるところ、マジ可愛すぎなんですけどー♡」

「アタシも昂ぶっちゃって、腰の動き、止まらないし♡ んお、んおお、リーダーのアナル、もつと堪能させてッ♡ あ、あ♡ あは、リーダーも感じてるんだ？」

「ハアッ、ハアッ♡……ふぁッ……んっ、んぁっ、はう……スン、スン……ふっ、つぶぁ、んんっ……はあ、はう♡」

「女の子みたいな喘ぎ声、止まらないね。自分から腰振って、アナルでオチンポ欲しがっちゃってる♡」

「お尻をデカマラにかき混ぜられて、よがっちゃうリーダーをもっとイカせて、射精させたげる。ほらほらほら、ほらぁッ♡ アナルであへあへ感じながら、」

「びゅっくびゅくってえ、思い切りお射精しちゃうってえーッ！」

「出して、出してえッ♡ ほらあ、いくつぱい、ぷりっぷりの濃い精液、空っぽになるまで搾精されちゃってッ♡」

「ああ、アタシも出す、リーダーのお尻に、あくう——ッ♡」

「あ、あ……無様な搾精姿見ながらのふたなり射精、気持ちいいし……あは、どうしたの目を見開いて、たっぷりお腹に出されて、射精量またアップしてるし」

「メス穴遣いされて、気持ちいいんだね、もっとアタシの中出し、奥で受けとめたいんだよね、ん、んんッ♡」

「それに、アタシが一回出しただけで、満足するわけじゃないじゃん。んはああ……まだ、終わらないから、もっと出させて♡ リーダーのアナルをとことん味わいつくさせてえ♡」

「ハア、ハア♡ ハアッ♡!!……んあ♡ ふあっ♡!!……んっ、んあっ、はう……っふあ、んんっ♡!!……はあ♡ はう……イクうっ♡♡!!……あ、あっ、あー♡」

「おふ……また、出るう♡ たっぷりのザーメン、んお、んお……身体の奥から迫りあがってきて、で、出るう、出りゆうッ……リーダーの中に生出しいい、おふおーッ♡」

「……あ、あ……やっぱり、ふたなり精液出されたリーダー、気持ち良さそう。くすす、もうリーダーの身体は、アナルの悦びを覚え込んだじゃったね♡」

「二度と元のリーダーには戻れない、メス穴人間一直線、ってカンジ？ 大丈夫だよ、センプイ。戦隊リーダーだった、『蒼刃』だったことなんて」

「全部忘れちゃって、安心して堕ちていいよ♡ほら、アタシ見て。組織に改造してもらって、こんなに幸せで、気持ちいい思い、毎日してるし、あ、あふ……」

「司令くーん、それに、みんなも、見て、見てーッ♡」

「出る、ドロドロの濃いチンポエクス♡」

「またリーダーに生で出すう♡ おっほおおーッ♡」